循環経済拠点港湾（サーキュラーエコノミーポート）のあり方（素案）へのご意見と対応状況

※第 2 回検討会のご意見を踏まえて修正したあり方（素案）の意見照会結果

章・項番号	ご意見	対応状況
はじめに	「循環資源」の定義がありませんが、法令上の定義と一致しているのか明記していただきたいと思います。（循環基本法の循環資源を指している、本文書で想定している一部の廃棄物が入らない可能性があるため御留意ください。また、対象範囲の明確な線引きは難しいと思いますが、「循環資源」の取扱いを港湾でどう運用されるか検討が必要だと思います。）	循環資源の定義を追記した。ご指摘の点はよく留意のうえ次年度以降の検討を進めていきたい。
2 章(1)	「世界のマテリアル需要は、金、銀、銅などの累積需要が 2050 年までに埋蔵量の 2 倍超、再生プラスチックの利用促進による再生プラスチックの奪い合い等で増大していく中」は、文章のつながりがおかしいかと思えます。（世界のマテリアルの引き合いは、奪い合いで強くなることはあると思えますし、需要が増大することで奪い合いが過熱することはあると思えますが。）	ご指摘の点、修正した。
2 章(2)	「政府が掲げる GHG の排出削減目標に貢献できるような資源循環を目指す必要がある」の例示はできないか。	例示として、「船舶などの低炭素型の輸送モードの活用促進」について、記載した。
2 章(6)	<ul style="list-style-type: none"> ・サーキュラーエコノミーの考え方は、EU で始まった。次年度の検討では、サーキュラーエコノミーの歴史的背景、EU におけるサーキュラーエコノミーの中での港湾の役割についての歴史的な考察など、さらなる深堀を期待する。 <p><参考></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウィキペディアによれば、サーキュラーエコノミーは 2015 年に EU で提唱され始めたとのこと。EU 各国港湾でのサーキュラーエコノミーの移行に向けた取り組みはそれに端を発している。リニア・エコノミーにたいするサーキュラー・エコノミーであり、サーキュラーエコノミーポートである。 ・一方、日本では、リサイクルポートの取り組みが 2000 年からスタートしている。リサイクルポートは、サーキュラーエコノミーポートの先駆け、先取りと 	ご意見は参考とさせて頂く。

	<p>も言えるものであり、リサイクルポートは既にサーキュラーエコノミーポートのベースでもある。そのリサイクルポートの高度化、強化を図るというコンセプトを変えるべきではないと考える。</p> <p>WIKIPEDIA :</p> <p>サーキュラーエコノミー (circular economy) は、EU が 2015 年 12 月に政策パッケージ^①を公表したことで世界的に広まった概念。和訳して「循環経済」とも呼ぶ。</p> <p>製品、素材、資源の価値を可能な限り長く保全・維持し、廃棄物の発生を最小限化する<u>経済システム</u>を意味し、これまでの一方通行でモノを使う「直線経済」からの脱却を目指す。3R や循環型社会と類するものの、シェアリング、リース、リユース、リペア、リファービッシュ、リサイクルのビジネスモデルに重点を置くなど、産業政策の側面も強い。持続可能で低炭素かつ資源効率的で競争力のある経済への転換に貢献するものとされる。</p>	
3 章(1)	<p>循環資源は廃棄物であるか否かによって輸送形態や輸出入手続きが大きく変わること留意が必要な旨記載したほうがいいのではないかと。</p>	<p>ご指摘の点、3 章(1)①に追記した。</p>
3 章 (1) ②	<p>循環資源の流動の把握については、本文には「港湾間の流動量、輸送手段など把握」とあるが、今後の陸上輸送からコンテナ船や内航フェリー・RORO 船などへのモーダルシフトを考慮すると、後背地などの周辺地域の循環資源の流動状況も把握する必要があるのではないかと。</p> <p>また、後背地も含めた周辺地域におけるリサイクル施設なども含めた流動状況を把握する必要があるとおもう。というのは今後、リサイクル施設の移設や拡張などが港湾で行われる可能性があるからである。</p> <p>特に、3 章 (3) ①にも関連して、廃プラスチックについては多様な資源と行き先が想定されることから、関係者へのヒアリングを通して詳細に調べる必要があるかと思う。</p>	<p>ご指摘の点、4 章(3)①もあわせて追記した。また、ご意見は参考とさせていただきます。</p>

3章(2)	リサイクル関係の貨物は、鉄道で運ばれるものも多い。港湾で鉄道と海上輸送との接続性をよくするための鉄道貨物ターミナルの整備ニーズも出てくるものと思われるところ、その記述について検討願いたい。	鉄道貨物ターミナルのニーズについては、状況をよく確認する必要があるため、次年度以降の検討事項とさせて頂きたい。
3章(2)	今後、ドライバー不足により長距離輸送を中心に陸上輸送から海上輸送へのモーダルシフトが進む可能性が考えられているが、内航船業界についても、船員不足が進んでいるとともに、各港（特に地方港）において作業員不足となっている。積極的にモーダルシフトを進める上で港湾施設整備（自動化）などは、積極的に進めるべきと考えられる。	留意点として、「船員や作業員不足への対応が重要である」ことを追記した。
3章(3)① ④ 4章(3)⑤ P.13、 P.16、P.19	リチウムイオン電池、プラスチック、火災などについては、それぞれ別々の項目にて触れられているが、最近では、リチウムイオン電池などがプラスチック廃棄物に交じり火災を引き起こす例が散見されることから、港湾でも適切な管理と輸送、処理が求められる可能性がある。この注意喚起について、P.16のリチウムイオン電池の記載箇所に簡単に追記してはどうか。	ご指摘の点、追記した。
3章(3)②	輸出先として、遠方の国へと転換していく可能性について言及しておいたほうがいいのではないかと。輸送の遠距離化は、輸送船舶の大型化に繋がり、サーキュラーエコノミーポートの要件に関わる可能性がある。	ご指摘の点、追記した。
3章(3)④	脱炭素化技術へのニーズから、銅スクラップや使用済電気電子機器の輸入が必要となる可能性があり、サーキュラーエコノミーポートの輸入拠点としての役割に繋がる。断言はできない話であるが、可能性として触れられないか。	事実関係をよく確認する必要があるため、次年度以降の検討事項とさせて頂きたい。
3章(3)④	風力発電設備について加えていただきましてありがとうございます。 今後、建設が進む風力発電は、その荷揚げ、組立なども港湾で行われることになっていると思います。最初から、静脈の拠点になることを考慮して、動脈拠点を形成すべきだと思います。	ご指摘の点、追記した。

<p>3章(3)④ 4章(1)</p>	<p>(1)P17 8行目には「リサイクル事業」、17行目には「リサイクル産業」という言葉が使われています。サーキュラーエコノミーが進むにつれて、循環資源を取り扱う事業者は、廃棄物処理業や(マテリアル)リサイクル業だけではなくなくなっていく可能性があるため、「資源循環業」としては如何でしょうか。 (2)輸出業や商社は、ここで用いられている「リサイクル事業・産業」として想定されておられか、ご教示いただけますと幸甚です)</p>	<p>(1)新しい用語の使用は混乱を招く可能性もあるため、次年度以降の検討事項とさせていただきます。 (2)リサイクル事業・産業に関わる輸出業・商社も想定している。</p>
<p>4章(2)</p>	<p>・リサイクルポートがサーキュラーエコノミーポートへ移行する場合、既存のリサイクルポートのこれまでの取り組み、これからの意向、意志が反映されるように配慮していただきたい。 ・また、リサイクルポートにとどまることを希望する場合には、それによる不利益を被ることがないように配慮していただきたい。 ・その観点から以下の修文をお願いしたい。 原文 「また、既存のリサイクルポートは、今までも港湾を核とする静脈物流システムの構築に貢献してきた経緯から、サーキュラーエコノミーポートに移行し、その取組を強化することが望ましい。」 修正文案 「また、既存のリサイクルポートは、今までも港湾を核とする静脈物流システムの構築に貢献してきた経緯から、サーキュラーエコノミーポートに移行し、その取組を強化することが望ましい。なお、移行する場合、過度な負担、要件が課されないよう、また、移行しない場合、不利益を被ることがないように配慮することが必要である。」</p>	<p>ご指摘を踏まえて、「移行にあたっては、既存のリサイクルポート関係者の意向に配慮しつつ進めることが必要」である旨を追記した。</p>

4章(3)	不正輸出が増長すれば、循環資源の適正な貿易や港湾における循環資源の取扱に関する弾力的運用に水を差しかねない。港湾行政（特に港湾管理条例）と環境行政（特に廃掃法・バーゼル法関係）が協力した水際対策の必要性を書き込めないか。ベストプラクティスとして博多港の事例があるはず（雑品スクラップの火災事案を契機として運用を大幅変更）。	ご指摘の点、追記した。
4章(3)①	ここでの記述と、4章(3)⑤の内容は、大きく異なるのでしょうか。情報流通プラットフォームの構築やDX化を想起させる内容ですが、敢えてそうした言葉は入っていないとの認識でよろしいでしょうか。	調査手段も含めて検討が必要な事項であると考えている。
4章(3)⑤	流動の見える化と一緒に、トレーサビリティとして、本来国内循環が望ましい循環資源をピックアップして調査すべきであると思います。	ご指摘の点、追記した。
4章(3)⑥	CNポートでの取組との連携など、リサイクルのみならずエネルギー分野との連携も重要であると。また、生物多様性については、P8に触れられているが、それ以降受けるところがない。関連施設整備の際に生物多様性に関する取組を平行に行うなど、調査検討から始める必要があると思う。	ご指摘の点、追記した。